

## 2020年度前期経済学部授業評価アンケートの報告

### 1. 実施概要と重点課題

#### (1) 実施概要

授業改善に役立てるために授業評価アンケートを期間中と期末の2回実施する。

#### ・期間中アンケート：

(方法) 授業期間中の中間時点で nfu.jp を用いて学生が回答する。

(目的) 期間中の授業方法の改善。

#### ・期末アンケート：

(方法) 授業期間後の成績発表時に nfu.jp を用いて学生が回答する。

(目的) 次年度以降の授業改善への活用。

#### ・担当教員による授業評価報告書の作成：

期間中アンケートと期末アンケートの結果を踏まえて、担当教員が授業方法等の改善を検討し、「授業評価報告書」を作成する。東海事務室は、担当教員が作成した「授業評価報告書」を学生に開示する。

#### (2) 2020年度授業評価アンケートの重点課題

①学生の総学修時間を増加させる

②授業内容が理解しやすい教材に工夫する

③シラバス（科目概要）に合致した授業進行（全学的な課題）

### 2. 本報告の対象科目

対象科目は表1の7科目である。「経済学」、「経済経営のための数学」の2科目は必修科目である。「経営学」、「現代の医療と福祉」、「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「法律学」の5科目は、これらの中から2科目を選択して修得することが卒業条件になる選択必修科目である。これらの7科目は、経済学部のコア的な専門科目として位置づけられる。

今回報告するのは、前期開講科目の4科目で、各科目の回答数は表1のとおりである。

表1 報告の対象科目と回答数

2020年度【前期開講科目】				2020年度【後期・通年開講科目】			
科目名	履修者数	回答数	未回答数	科目名	履修者数	回答数	未回答数
1 経済経営のための数学	151	146	5	1 経営学			
2 経済学	230	224	6	2 マクロ経済学			
3 ミクロ経済学	207	198	9	3 法律学			
4 現代の医療と福祉	138	134	4				

注) 「経済経営のための数学」において、報告対象となる専任教員クラスの数6で、履修学生数は151人である。すべてのクラスで合計すると数学の履修者数は222人である。

### 3. 授業評価アンケートの集計結果

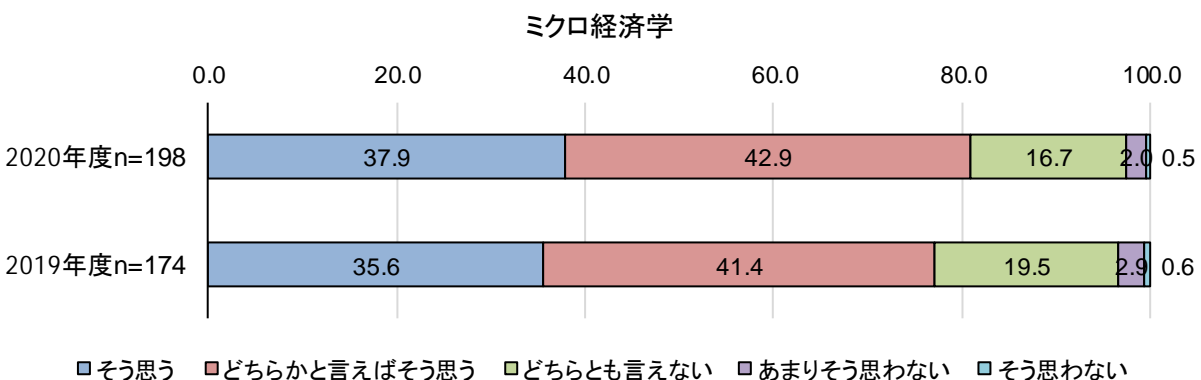
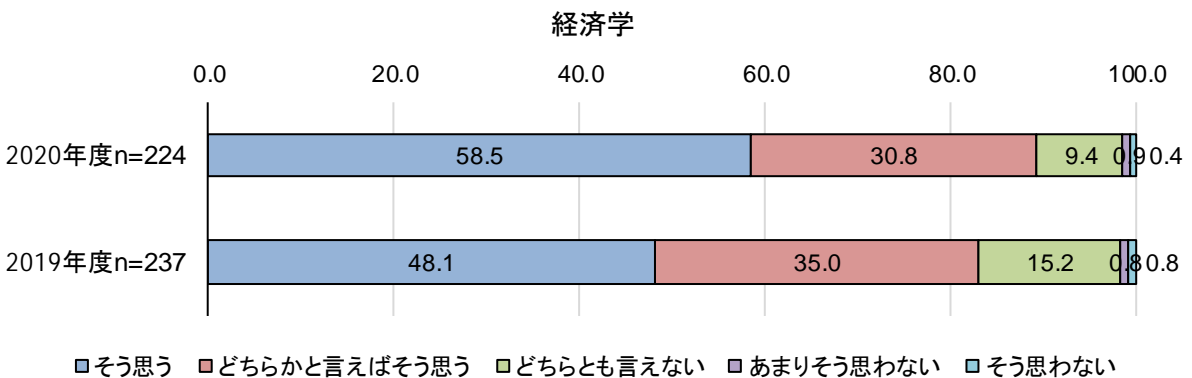
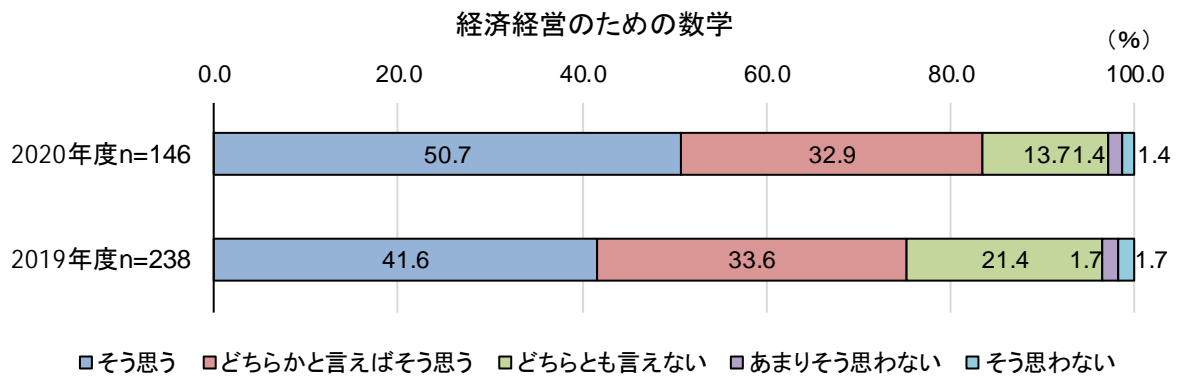
#### 3-1. 重点課題とアンケート質問項目の関係

- (1) 学生の総学修時間を増加させる ⇒ (期末アンケート質問 6、8)
- (2) 授業内容が理解しやすい教材に工夫する ⇒ (期末アンケート質問 3)
- (3) シラバス (科目概要) に合致した授業進行 ⇒ (期末アンケート質問 10)

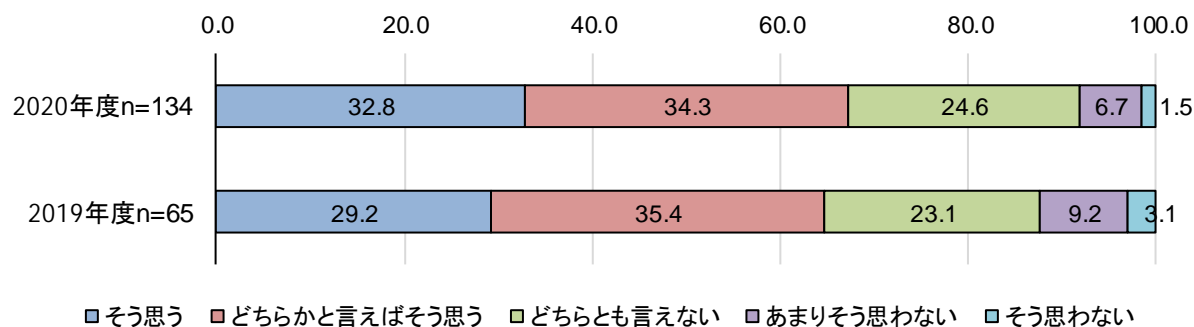
#### 3-2. 重点課題別の集計結果

- (1) 学生の総学修時間を増加させる

【質問 6】宿題・予習・復習をするような授業構成と教材 (テキスト・レジュメなど) になっていましたか。



### 現代の医療と福祉



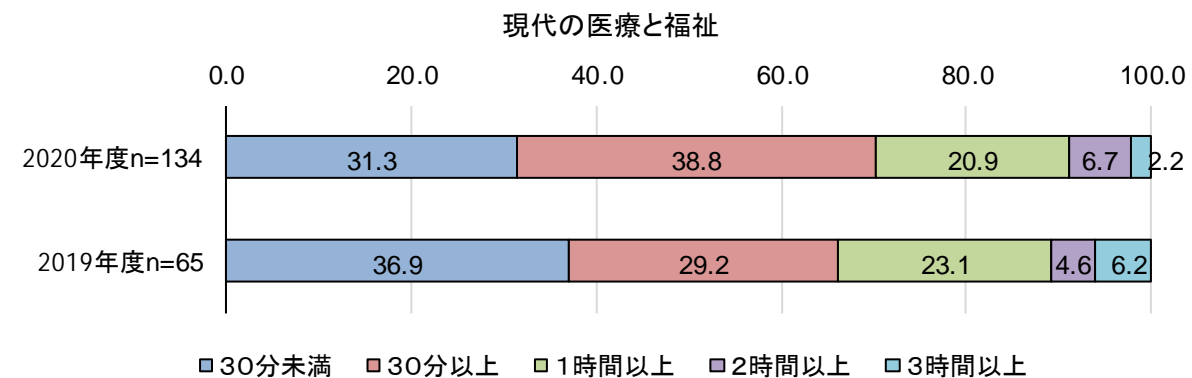
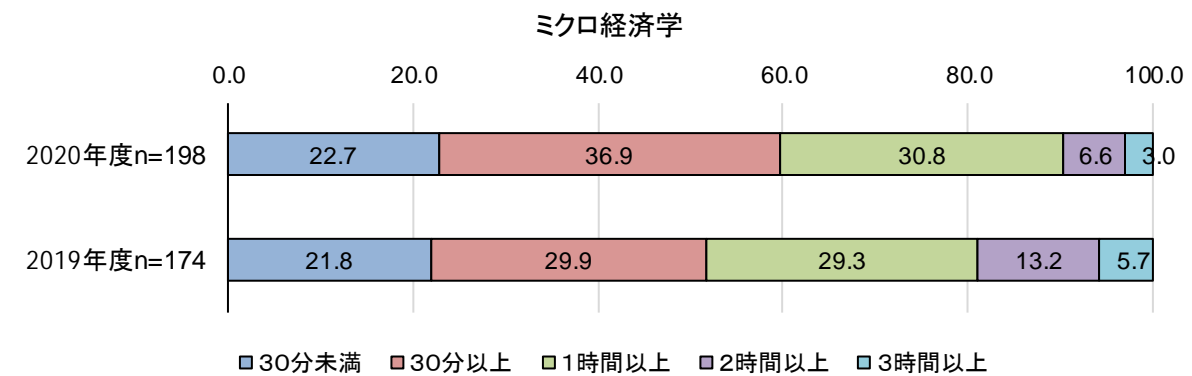
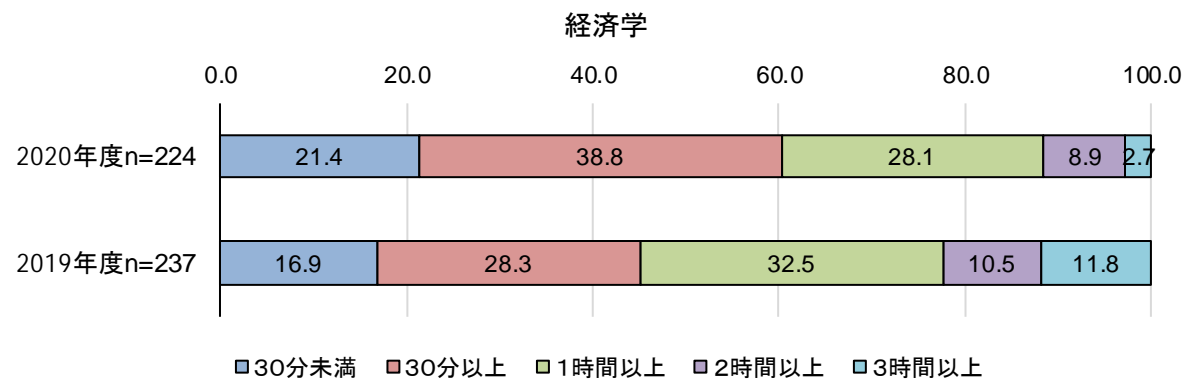
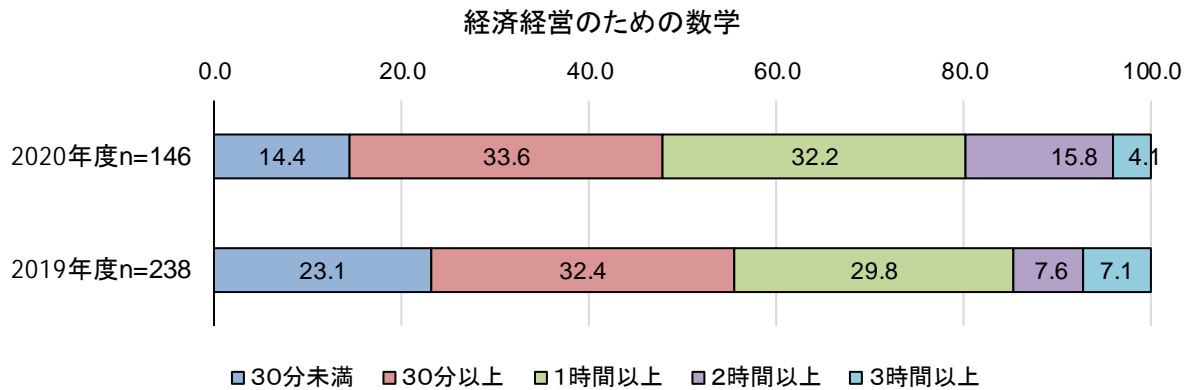
#### ①結果の概要

宿題・予習・復習ができる授業構成と教材かを問う質問6に「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した学生の割合は、2020年度の4科目において67.1%～89.3%である。2019年度と2020年度で比較すると、4科目ともに「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した学生の割合が大きくなった。

#### ②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・次の授業で扱う部分を伝え、共通テキストを事前に読んでおくことを求めた。また、出題した練習問題を授業中に取り組んでもらうだけではなく、間違った問題の復習や練習問題の一部を宿題とすることで授業後に学習する時間を確保した。ただし、もう少し多くの練習問題を解いてもらった方がよかったと考えており、今後は宿題の量を増やして授業後の学習時間を増やすことを検討したい。
- ・数学の力のある学生が多いクラスなので、理解のための予習・復習や宿題を行うことがそれほど苦でなかったのかもしれない。
- ・平均すると2回の授業に対し1回の割合で、宿題を課した。中間テストを実施した。一部（4回）、オンデマンド教材の予習を前提とした講義を行った。
- ・オンライン授業になって、2回に1回は宿題を出すようになった。しかし、去年より学習時間増加をしたという実感はない。また、授業外の課題の増加は、他の科目との兼ね合いで負担感を訴える学生もいたので、慎重に検討していく。

【質問8】 この科目について、1回の授業時間以外に予習や復習のためにどの程度勉強しましたか。



①結果の概要

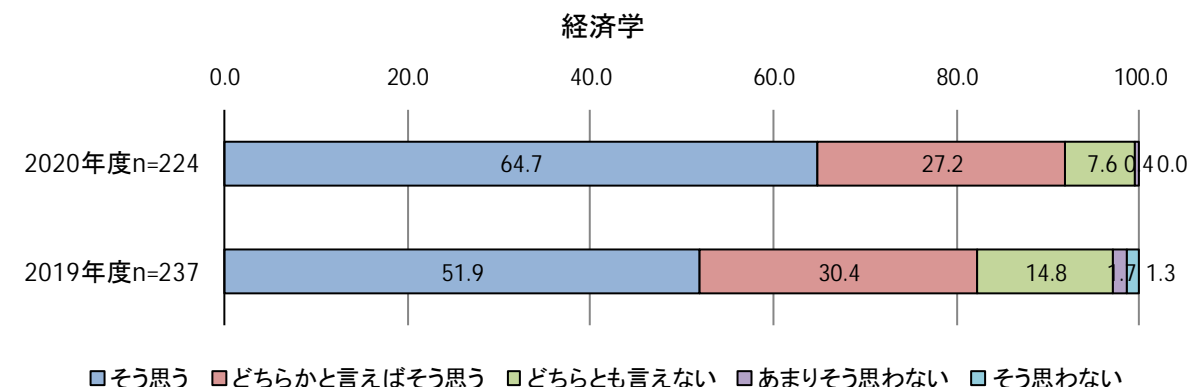
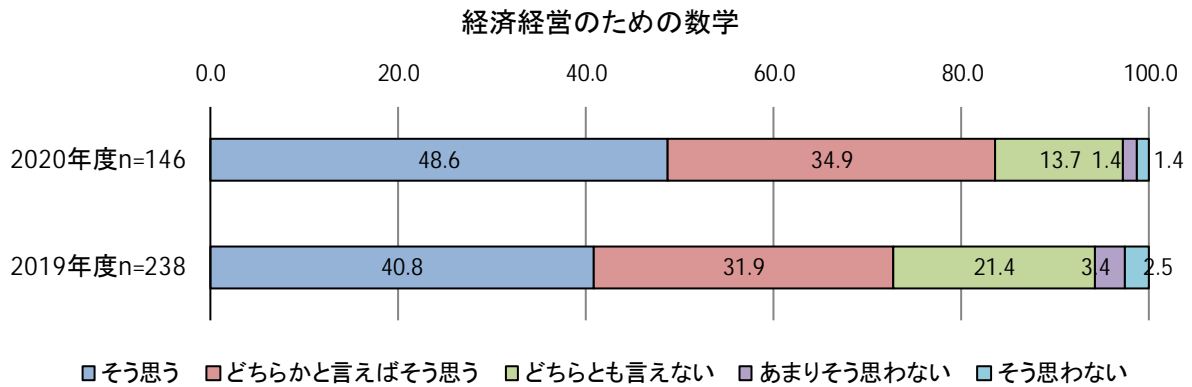
いずれの科目においても、回答者の割合が最も多いのは「30分以上1時間未満」で、4割弱を占める。2016年度以降、「30分未満」と回答する学生の割合は20%前後で推移していて、2020年度も同様の値を示す。2019年度と比較した時の変化は科目によって異なるが、「3時間以上」と回答した学生の割合は4科目ともに縮小した。

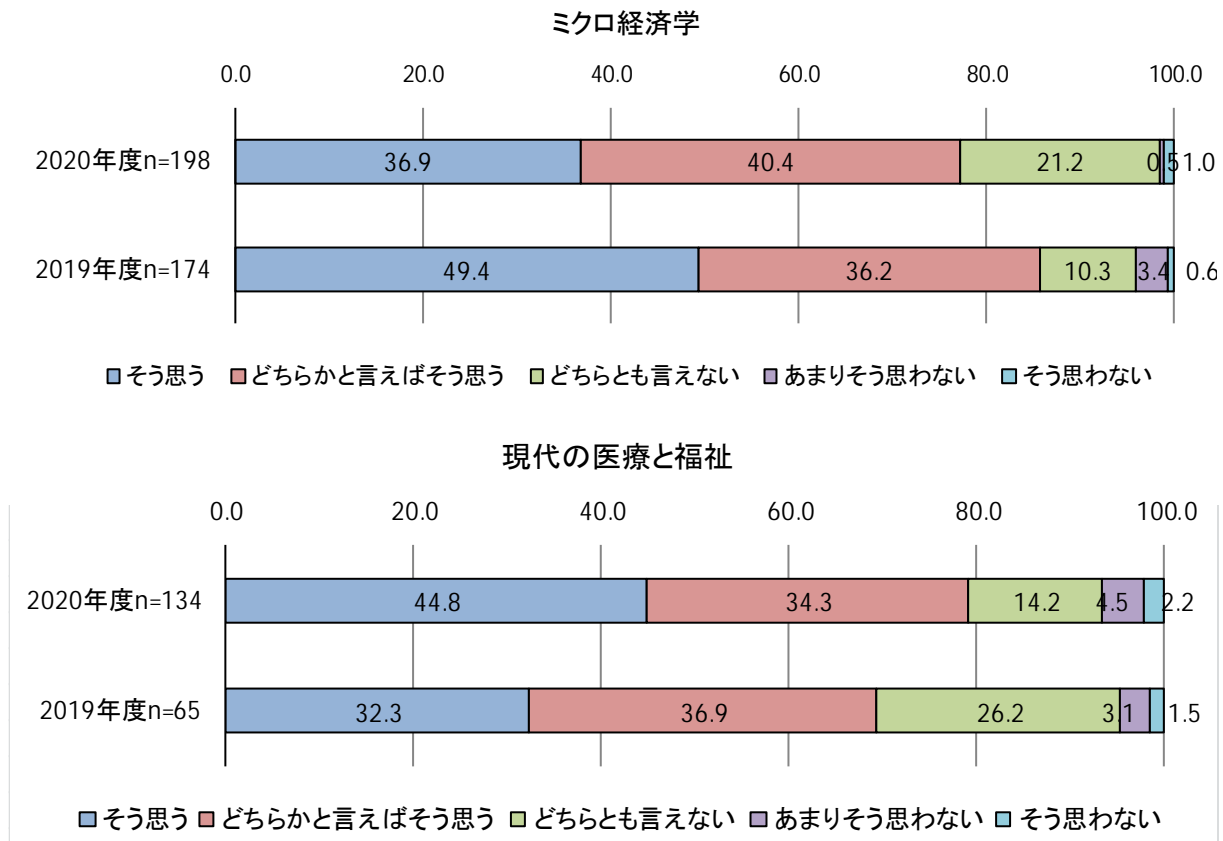
②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・25名中、「30分未満」が2、「30分以上」が12、「1時間以上」が7、「2時間以上」が4となった。数学なので、毎回テキストから宿題を課したが、やや不満の残る結果となった。さらに勉強させる工夫が必要だと認める。
- ・中間段階で1時間以上が30%以上、30分以上が50%という回答率で、期末段階では1時間以上が35%、30分以上が45%ほどであった。30分以上と回答している割合は変わらないが、1時間以上と回答している人の割合が増えている。宿題や中間試験などへの取り組みが反映されているのではないかと思う。
- ・ほぼ毎回宿題を課したり、問題を考えさせるよう指導を行った。また、公務員試験などを例に出して、問題を解かせる試みも行った。公務員志望の学生も多かったのか、「1時間以上」がかなり多かった。

(2) 授業内容が理解しやすい教材に工夫する

【質問3】教材（テキスト、レジュメなど）は授業の理解に役立ちましたか。あてはまるものを1つ選んで下さい。





### ①結果の概要

教材が授業の理解に役立ったかを問う質問3に「あまりそう思わない」あるいは「そう思わない」と回答した学生は、2020年度の4科目において0.4%～6.7%である。教材は授業の理解に役立っていると評価できる。2019年度と比較してもこの値に大きな変化はみられない。

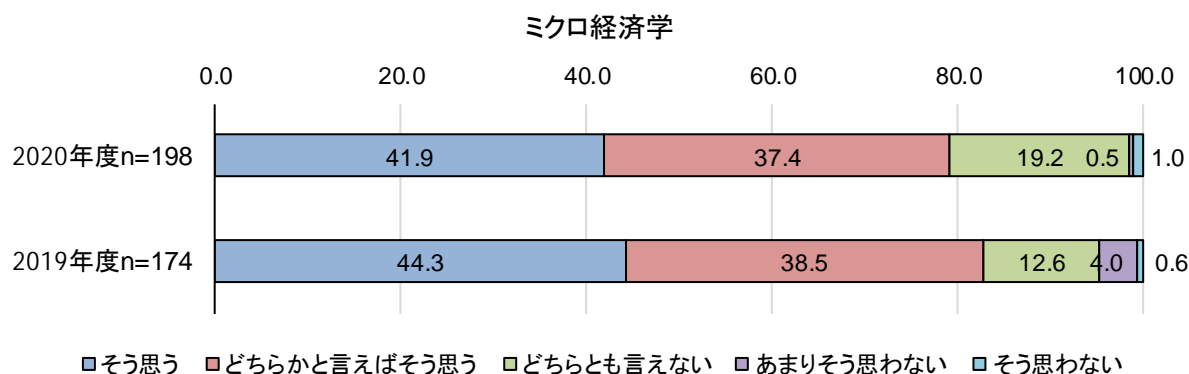
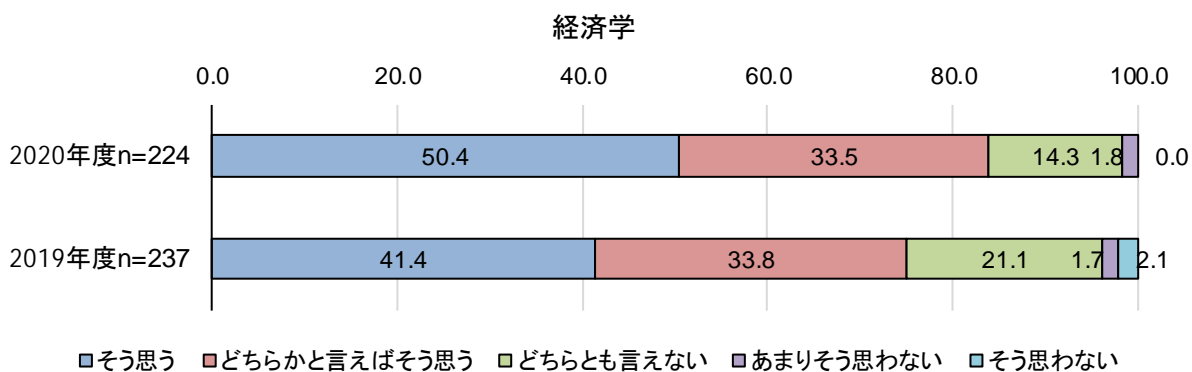
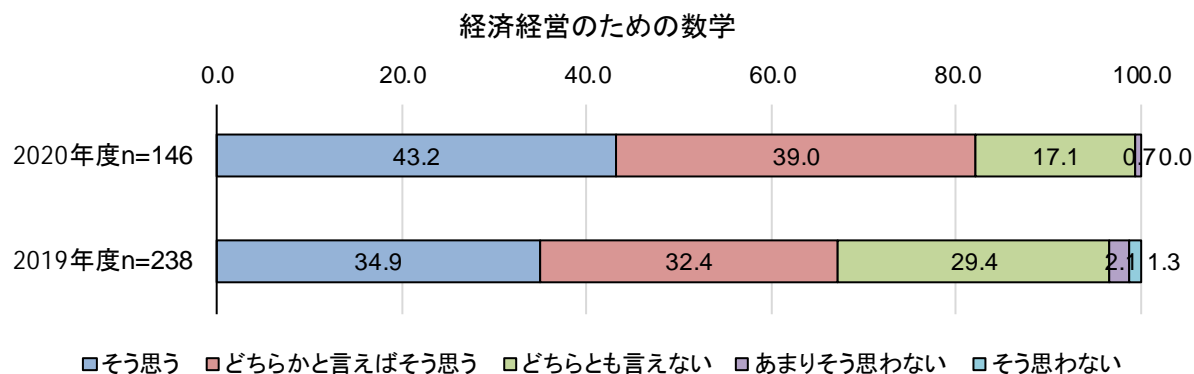
### ②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

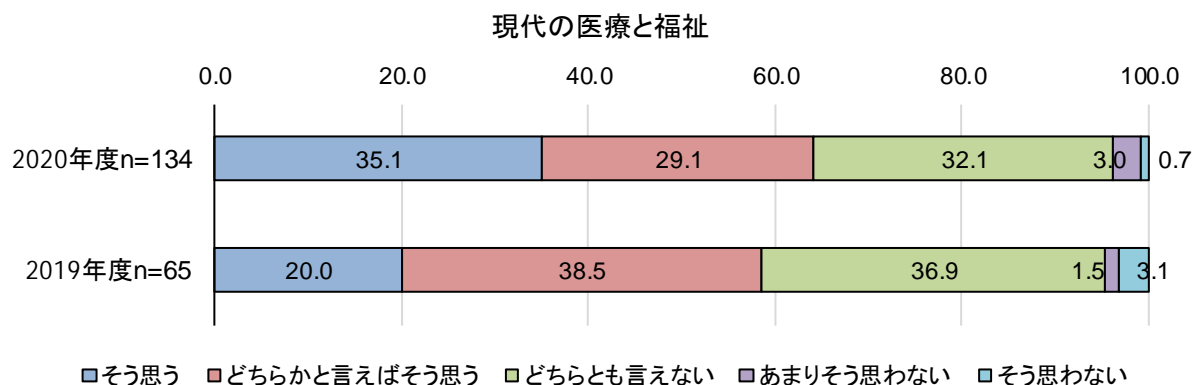
- ・中間アンケートで80%以上、期末アンケートで75%がわかりやすい教材と評価している。  
読めば理解できるように書かれたテキストなので評価が高いと思われる。講義では、補足内容をできるだけテキスト上に書き込んで見えるようにした。
- ・共通テキストの内容を整理した教材を作成し、例題の解説などを行った。ほとんどがZoomでの授業であったため、学生がどの部分の理解で悩んでいるかを判断することが難しかった。今後は、学生の様子をもう少し注意深く伺い、理解の難しい点を解説する内容を教材に盛り込むことを検討したい。
- ・従前より全クラス共通の紙媒体のテキストを配付しているが、今年度はZOOMでの授業でテキストを読み直すということが増えたことにより、肯定的な意見が増えたと考える。また、各クラスの先生方による補助資料の作成も学生の理解を深めることになったと考える。
- ・中間段階より期末段階の方が教材がわかりやすいという回答が増えた(80%→90%)。読めばある程度理解できるように作っているつもりだが、それが通用しているということなのだろう。

- 198名中、「そう思う」が73、「どちらかと言えばそう思う」が80、「どちらとも言えない」が42、「あまりそう思わない」が1、「そう思わない」が2となった。テキストは指定せず、レジュメなども作っていない科目なので意外だったが、使用したスライドやOneNoteがわかりやすかったのだと思う。

(3) 科目概要(シラバス)に合致した授業進行について

【質問10】授業はシラバス通りにすすみましたか。





#### ①結果の概要

授業はシラバス通りに進んだかの質問に「あまりそう思わない」あるいは「そう思わない」と回答した学生は、いずれの科目においても5%未満である。したがって、授業はシラバス通りに進んだと評価できる。「あまりそう思わない」あるいは「そう思わない」と回答した学生は、2019年度に3.4%~4.6%と少数であったが、2020年度にこの割合が一層縮小した。

#### ②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・高校段階で習っている人と習っていない人、理解の程度がかなり異なるところがあったので、そこを繰り返し練習する時間を取ったため、一つの章を飛ばすこととなった。ただ、無理に進行を早めるよりは、立ち止まって練習したことで理解は深まったように感じている。
- ・ほぼシラバスに合致した授業進行ができたと考えているが、復習に時間をかけたため、シラバスの内容の一部を省略した。学生の理解度に差があったためやむを得ない対応ではあったが、理解の進んでいた学生にはもの足りない印象があったかもしれない。
- ・学生の期末評価では86%がシラバス通りに進行したと受け止めているが、事前に公開している毎回の講義を記したプリントの内容は予定通り講義することができた。オンラインの方が、講義中の注意や板書にかかる時間などが短くなり、むしろスムーズに進行したように感じた。
- ・ゲスト講師を招いての講演を考えていたが、コロナ禍で実現できなかった。また、ほぼシラバスの内容は扱ったが、一部順番を変更した。コロナ禍ということもあり、時事的問題として、今年度は、医療についてのタイムリーなトピックスをとりあげ、解説する時間が増えた。

#### 4. 上記以外の取り組み事例（オンライン授業に関する取り組みを中心に）

##### (1) 取りまとめた科目

実技・演習系科目を除く講義科目のうちの経済学部専任教員および招聘教員担当科目数：22、報告数：28



## (2) 授業評価アンケートに対する教員の取り組み

- ・講義はほぼ zoom 利用のオンライン講義で、対面講義の場合、学生が理解しているか関心を寄せているかを把握できるが、そこができないので、こちらができることはより例えを入れながら、分かりやすく講義を進める、この一点に絞りオンライン講義に臨んだ。
- ・5月は ZOOM になれず、聞こえるか、画面が見えるか、切り替わっているかの確認作業にかなり手間取ったり、それに気を取られて説明が時々止まり、例年より、スムーズに授業が進められないという実感があったが、ワードでも、パワーポイントでも、重要事項は繰り返して説明する、またできるだけ画面拡大も試みた。
- ・音声については、聞こえているかどうか毎回授業中に数回学生に確認するように努めた。スマホ受講者もいるということで、資料については、表示された文字等をなるべく読み上げるようにした。添付ファイルで送った資料等を全部印刷するとページ数が多いものについては（負担をかけるので）、授業中にその資料要所は画面表示するので印刷しなくてもよい旨を事前に伝えた。
- ・対面に比べて Zoom での講義は板書時間が節約できるため、情報量が多くなりやすかった（説明の速度がやや速かった）と感じている。適正化に努めたい。
- ・配布資料をほとんどなくし、課題等の提出を Google フォームに切り替えた。それに伴い、レポート等の作成を手書きからパソコンに変更した。外部資料の過剰な参照等は見られず、講義内容を踏まえた記述がかえって多く確認された。
- ・数学なので、途中式や補足の説明で数字、式、図を書く必要があるため、急遽、ペンタブレットを手に入れて利用した。こうした道具が手に入らなければ、オンラインで講義するのは難しかったと思われる。
- ・今年度もパワーポイントと、穴埋め式のレジュメおよび新聞記事等の資料で授業を進めた。パワーポイントのスライドは例年、「切り替えをもう少しゆっくりしてほしい」との要望が出るので気をつけて授業を行った。Zoom の授業ではチャットで「スライドの○枚目をもう一度見せてほしい」などの要望が出された場合は授業の終わりに該当のスライドを再度映し出して対応した。
- ・授業後に感想を書かせて提出させたので、それなりに授業外に時間を使ったのではないかと。設問6（予習復習するような授業か）では2/3以上がそう思う・どちらかと言えばそう思うとなっている。他方、時間的には1時間未満が多いが、ZOOM で課題がたくさん出ているなかで、オプションの授業に多くの課題を出すのがよいのか悩ましい。
- ・洋書は、著者の出身国の文化や社会慣習等の影響を受けた文章になるため、和書に比べて理解のハードルが高い可能性がある。そこで、ある洋書の要約版（英語）をテキストに指定し、内容の大枠をつかんだ上で洋書本体に挑戦するようにした。

## 2020 年度後期経済学部授業評価アンケートの報告

### 1. 実施概要と重点課題

#### (1) 実施概要

授業改善に役立てるために授業評価アンケートを期間中と期末の 2 回実施する。

- ・ 期間中アンケート：

(方法) 授業期間中の中間時点で nfu.jp を用いて学生が回答する。

(目的) 期間中の授業方法の改善。

- ・ 期末アンケート：

(方法) 授業期間後の成績発表時に nfu.jp を用いて学生が回答する。

(目的) 次年度以降の授業改善への活用。

- ・ 担当教員による授業評価報告書の作成：

期間中アンケートと期末アンケートの結果を踏まえて、担当教員が授業方法等の改善を検討し、「授業評価報告書」を作成する。東海事務室は、担当教員が作成した「授業評価報告書」を学生に開示する。

#### (2) 2020 年度授業評価アンケートの重点課題

① 学生の総学修時間を増加させる

② 授業内容が理解しやすい教材に工夫する

③ シラバス（科目概要）に合致した授業進行（全学的な課題）

### 2. 報告の対象科目

対象科目は表 1 の 7 科目である。「経済学」、「経済経営のための数学」の 2 科目は必修科目である。「経営学」、「現代の医療と福祉」、「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「法律学」の 5 科目は、これらの中から 2 科目を選択して修得することが卒業条件になる選択必修科目である。これらの 7 科目は、経済学部のコア的な専門科目として位置づけられる。

今回報告するのは「経営学」と「マクロ経済学」の 2 科目である。「法律学」は、専任教員以外の教員が担当する科目であるため報告しない。各科目のアンケート回答数は表 1 のとおりである。

注) 「経済経営のための数学」において、報告対象となる専任教員クラスの数 は 6 で、履修学生数は 151 人である。すべてのクラスで合計すると数学の履修者数は 222 人である。

表 1 報告の対象科目と回答数

2020年度【前期開講科目】				2020年度【後期・通年開講科目】			
科目名	履修者数	回答数	未回答数	科目名	履修者数	回答数	未回答数
1 経済経営のための数学	151	146	5	1 経営学	180	170	10
2 経済学	230	224	6	2 マクロ経済学	233	222	11
3 ミクロ経済学	207	198	9	3 法律学	112	報告しない	
4 現代の医療と福祉	138	134	4				

### 3. 授業評価アンケートの集計結果

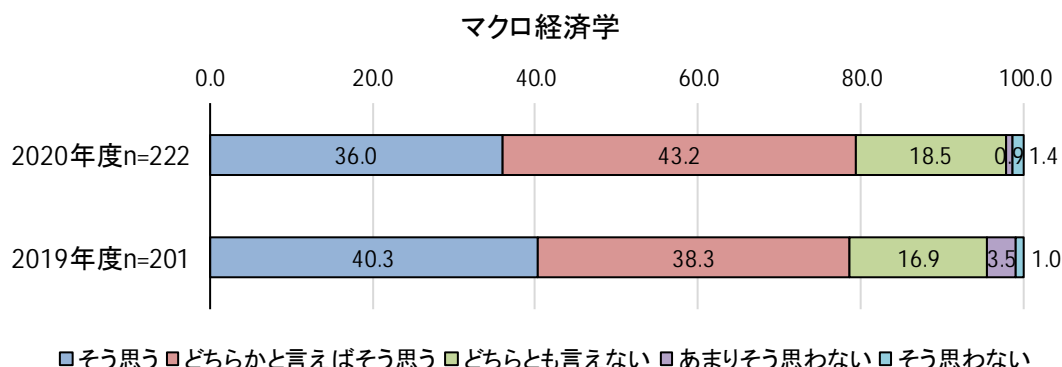
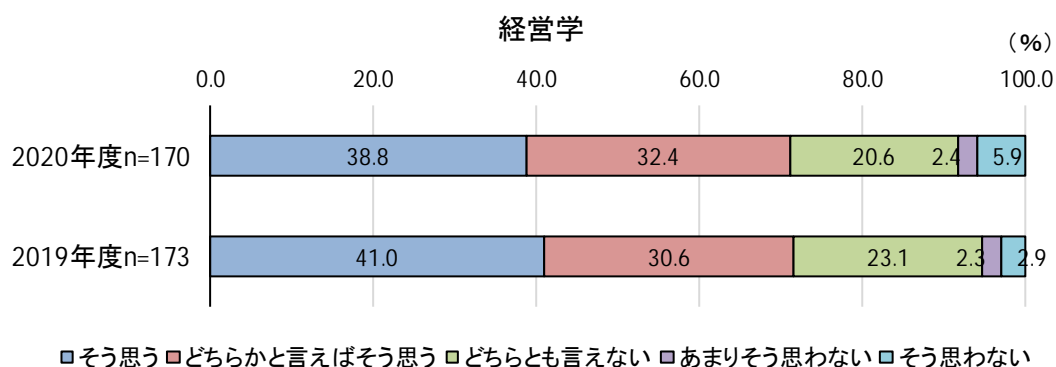
#### 3-1. 重点課題とアンケート質問項目の関係

- (1) 学生の総学修時間を増加させる ⇒ (期末アンケート質問 6、8)  
 (2) 授業内容が理解しやすい教材に工夫する ⇒ (期末アンケート質問 3)  
 (3) シラバス (科目概要) に合致した授業進行 ⇒ (期末アンケート質問 10)

#### 3-2. 重点課題別の集計結果

- (1) 学生の総学修時間を増加させる

【質問 6】宿題・予習・復習をするような授業構成と教材 (テキスト・レジュメなど) になっていましたか。



#### ①結果の概要

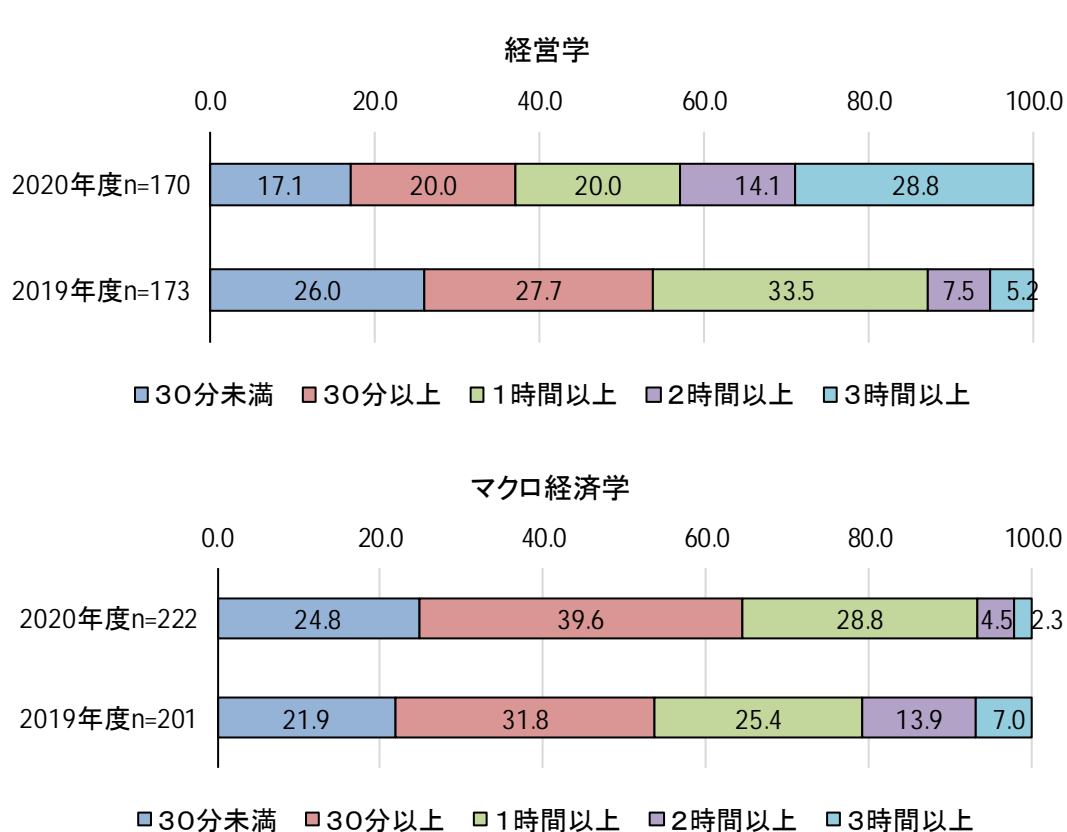
宿題・予習・復習をするような授業構成と教材かを問う質問 6 に「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した学生の割合は、2020 年度の 2 科目において 71.2%～79.2%である。2019 年度と 2020 年度で比較してもこの値に大きな変化は見られない。

#### ②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・ 毎回の授業において、小テスト (レポート) を実施しており、今後もより強化していこうと思っている。
- ・ 予習レポートの提出に対して加点することにしたところ、毎回 70 名程度がそれを提出した。また、対面のときと同じ回数 of オンライン版の宿題を課した。したがって、授業

外の学習に取り組んだ学生は一定数いたと考えられる。結果として、中間アンケートでは、総学修時間が30分以上が85%、期末アンケートでは75%ほどであった。

【質問8】この科目について、1回の授業時間以外に予習や復習のためにどの程度勉強しましたか。



### ①結果の概要

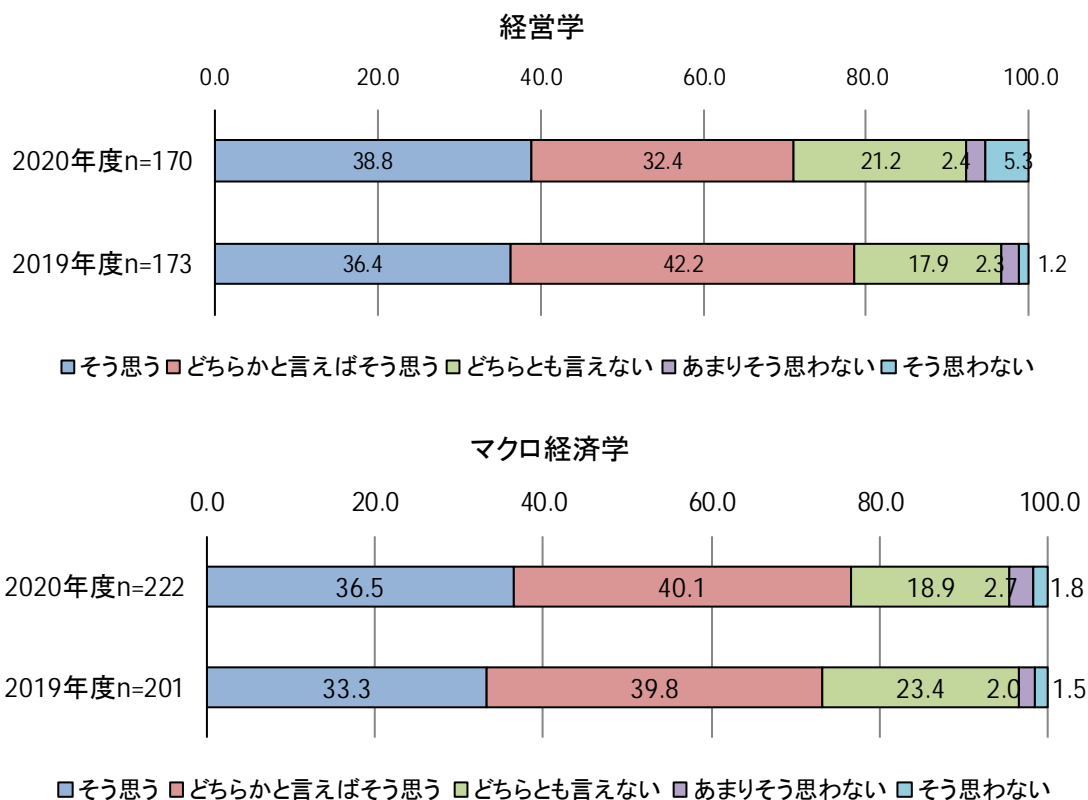
2016年度以降、「30分未満」と回答する学生の割合は20%前後で推移していて、2020年度も同様の値を示す。2019年度と2020年度で比較すると、経営学で3時間以上が5.2%から28.8%に増大した。

### ②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・回答者170名中29名が消極的に取り組み、22名が授業全体の満足度においてやや不満・不満、27名が授業内容についてよく分からなかったと答えている。また、授業の予習と復習に0~0.5時間未満が29名もいることが明らかになった。今後、何らかの改善を検討していきたいと思う。

(2) 授業内容が理解しやすい教材に工夫する

【質問3】教材（テキスト、レジュメなど）は授業の理解に役立ちましたか。あてはまるものを1つ選んで下さい。



①結果の概要

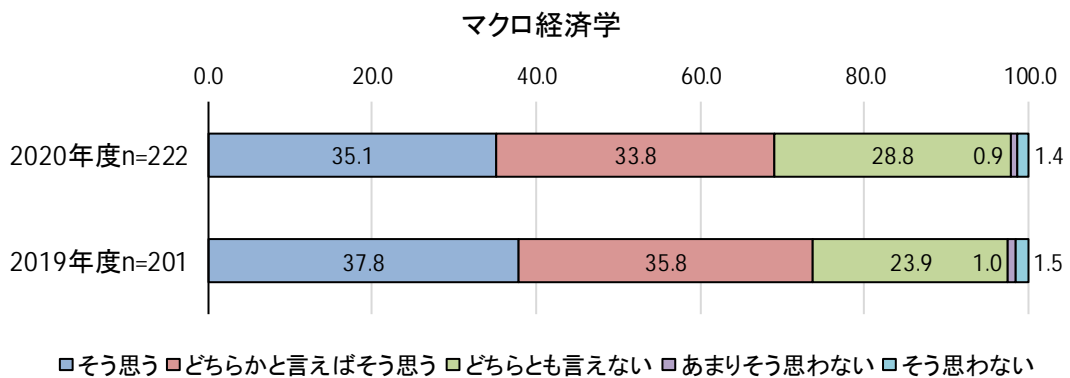
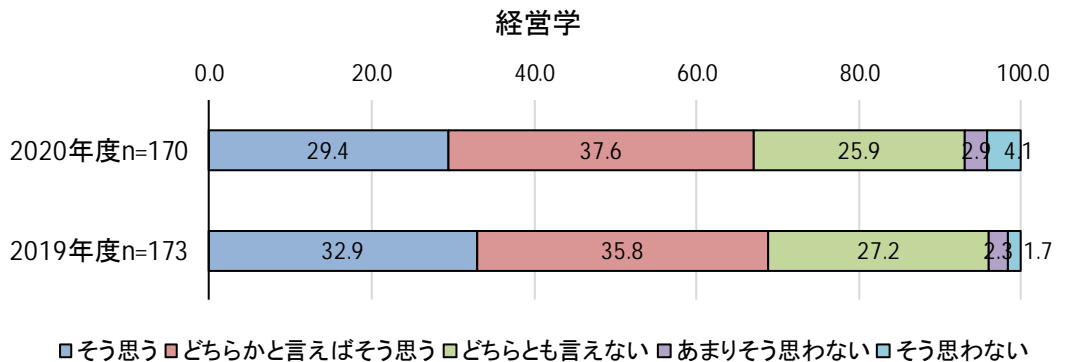
教材が授業の理解に役立ったかを問う質問3に「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した学生の割合は、2020年度の2科目において71.2%～76.6%である。したがって、教材は授業の理解に役立っていると評価できる。2019年度と比較してもこの値に大きな変化はみられない。

②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・経営学への関心を高めるために、企業の最近の事例などを具体的に説明するよう努めた。今後はゲスト講師による授業も導入していきたいと思う。
- ・資料はすべてファイル形式で公開することになったため印刷枚数を気にする必要がなくなった。そこで、従来の授業プリントに補足説明を加えるなど若干の改善を行った。また、数学が得意な学生向けに、補足で数学モデルによる説明なども加えた。アンケート結果では、期末アンケートにおいて、教材は授業の理解に役立ったかという質問に対して否定的な回答は5%であった。

(3) 科目概要（シラバス）に合致した授業進行について

【質問 10】 授業はシラバス通りにすすみましたか。



#### ①結果の概要

授業はシラバス通りに進んだかの質問に「あまりそう思わない」あるいは「そう思わない」と回答した学生は、いずれの科目においても 10%未満である。授業はシラバス通りに進んだと考えられる。2019 年度と 2020 年度で比較しても、2 科目ともに大きな変化は見られない。

#### ②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・シラバスに合致した授業進行ができた。

#### 4. 上記以外の取り組み事例

##### (1) 取りまとめた科目

実技・演習系科目を除く講義科目のうちの経済学部専任教員および招聘教員担当科目数：26

##### (2) 授業評価アンケートに対する教員の取り組み

- ・経済・経営の分析ツールとしての統計分析の解説と社会的有用性の説明に注力した。例年と同じく、前半では「データとは何か」、「分析とは何をすることか」を時間をかけて説明し、中盤以降で分析手法の解説と演習を行った。今年度は、統計計算に電卓だけでなくパソコンを使用できる環境だったため、計算自体に時間をかけるよりも手法を実践的に理解することに重点を置いた。昨年度の資料・練習問題のうち、電卓での計算は負荷が大きいと思われるものは内容を改訂した。
- ・医療保険制度の歴史を踏まえて、現在のDPC制度やNDB (National Data Base) などを利用するようになったのか、そしてそれは医療費の増加抑制に貢献しているのかどうかを医療保険制度の事前知識のない受講生にどう分かりやすく伝え、理解してもらえるのかという視点で講義は行っている。アンケート結果も概ねその期待に対して応えていると思われる。
- ・医療福祉組織が環境（上位システム）—組織—各部門・個人（下位システム）の関係性の中でどのように適応しているかを経営学のマクロ理論、ミクロ理論を紹介しながら、医療福祉組織は実際どう対応するのかをエピソードを交えながら、分かりやすく理解できるように講義することを心掛けた。
- ・リレー講義のため、講師に任せる部分が多く、事前の準備をしても、動画資料の音声が出なかったり、問題はあり、改善しきれなかった部分があった。
- ・今後、zoom講義が残るのかどうかは、不明だが、zoom ならではの講義（遠方のゲスト講師への依頼）を進めることができた。
- ・多くのゲスト講師の方に参加していただく講義であるため、オンラインでの授業運営にスムーズに適応していただけるように、できるだけ事前情報をお知らせしたり、授業進行に関する打ち合わせを行ったりした。また、一部、オンライン講義に適した授業内容や授業方法に変更した。
- ・わかりづらいと思われる内容は、繰り返し説明することを心掛けた。また、資料における文字のフォントサイズを最低でも 20pt にし、見やすさに考慮した。そして、実際に統計ソフトウェアを使うことで、できるだけ資料の内容をイメージしやすいように努めた。
- ・授業外学習時間が 30 分未満と 2 時間以上に二極化している傾向がある。課題を課したわけではなので、長時間学んだ学生は、テキストや授業で紹介した資料を学んだものと思われる。
- ・これまで授業内に回収するリアクションペーパーで出席を取っていたが、nfu.jp のレポート機能を使うことで、学修時間が増加した。
- ・全授業を ZOOM で行うことになったので、シラバスの変更を行った。変更した点は、授業の進行（毎回の内容）である。シラバス変更によって、授業内容を損ねることなく、かつ学生への周知を徹底した。また、変更したものに沿った授業進行を行えたと考える。